

登山報告書 (2025 燕岳)

日程	2025年2月22日～2025年2月24日
メンバー (役職)	現役：福岡 健志(リーダー)  濱田 健志(サブリーダー)  田川 陽斗(食料係)  藤尾 修一郎(装備係)  松浦 傑音(記録係)  石井 洋司(メンター)  OB：大西 啓之  草尾 寛  宮田 俊一
行動記録	2月21日  19:30 千里中央駅 発  2月22日  0:30 有明山神社登山者用駐車場 着  テント設営、仮眠  5:30 起床、出発準備

7:00 有明山神社登山者用駐車 発

9:30 観音峠

10:30 中房第五発電所

12:00 有明山登山口

12:30 燕岳登山口、ワカンを装着しラッセル開始

15:00 第1ベンチ

16:30 第2ベンチ テント設営

16:45 夕食準備

18:00 夕食

22:00 就寝

2月23日

5:30 起床、出発準備

7:00 第2ベンチ 発

引き続きラッセル

8:00 第3ベンチ

9:30 富士見ベンチ

10:30 合戦小屋

11:00 合戦沢の頭

11:30 アイゼン装着完了

13:00 燕山荘 着

山頂は断念し引き返す

14:00 合戦沢の頭

14:30 アイゼン解除、ワカン装着完了

14:45 合戦小屋

15:00 富士見ベンチ

15:30 第3ベンチ

16:00 第2ベンチ 着

16:30 夕食準備

17:30 夕食

21:00 就寝

2月24日

6:00 起床、出発準備

7:30 第2ベンチ 発

8:00 第1ベンチ

8:45 燕岳登山口

9:30 有明山登山口

10:45 中房第五発電所

11:30 観音峠

13:30 有明山神社登山者用駐車場 着



ルート状況

スタート地点から燕岳登山口までは林道を通り、アスファルトで舗装された道を歩いていった。登山口からは雪が高く積もっていた。膝から腰のあたりまでであった。各メンバーが交代でラッセルをしながら進んだ。トレースは見えず、地図やコンパス、赤テープ、雪がへこんだような部分を目印にすることなどを駆使してルートファインディングをしながら進んでいった。基本的にラッセル中はワカン装着し、燕山荘直下のみアイゼンを着用した。天

	<p>気については、一日目は雪が降っていたが山行に影響はなし。ラッセルやテント設営も問題なく行えた。二日目も比較的穏やかな天候で、日が差し込むこともあったが、やはり稜線に出たあたりは風が強く雪も降り、視界が悪く登りのトレースが下りでは見えなくなってしまうところもあった。三日目は晴天となり、日の光を浴びながらの下山であった。登りとは異なり、林道の雪は融かされ視界もよく周囲の景色がよく見えた。</p>
<p>個人の感想・反省</p>	<p>福岡 健志(リーダー)</p> <p>○感想</p> <p>今回は自分がリーダーとして初めての山行だったが、無事大きな問題なく終えることができ満足している。トレースがほとんどなかったため、当初の目的であったラッセルとルートファインディングの訓練ができ、自分の登山のスキルが少し上がったこともよかったと思う。</p> <p>○反省</p> <p>まず登山計画について、ラッセルをあまり考慮せずに登山計画を作成したためキャンプ地が変わってしまったり、時間の問題で山頂までアタックできなかつたりした。今回は大きな問題にならな</p>

かったが、縦走ならば大きな問題になっていたかもしれない。自分たちの体力や技術を考慮すること、かなり時間に余裕を持たせることなどで次回に活かしたい。

朝の行動について、全3日で予定より出発が遅くなってしまった。あらかじめ次の行動を考えて行動するようメンバーにも共有し、何もしていない時間をなくしたい。

そして、今回の山行ではラッセルの際や、ルートファインディングや装備の着脱、時間などの判断の際にOBの方の力を借りることがとても多かった。自分の経験だけでなく実力も大きく不足していることを痛感して本当に悔しい。現状OBなしの山行がありえないことが本当に悔しい。本当の意味で「自分の力」で山に登れるようになりたい。安心して送りだしてもらえるようになりたい。

濱田 健志(サブリーダー)

○感想

初めてのラッセルやアイゼン登山で多くの学びがあった。厳冬期の雪山であったため防寒具の量に苦勞した。歩いていると暑い

し、休憩中は寒いので調整が難しいと感じた。また稜線上ではトレースがわずか数時間で無くなったことに驚いた。目印の旗がなければ道迷いになる危険を感じ、万全の準備が必要だと分かった。今回の登山では出発が遅れたこと、歩くペースが遅かったことで登頂はかなわなかったが、危なければ撤退するという非常に重要な経験を積めた。以上の点で良い練習となった登山だった。

反省点を今後に生かしたい。

#### ○反省

・朝の準備に時間がかかり、3日間すべてで出発予定を守れなかった。手袋をつけた状態のワカン・アイゼンの着脱に手間取った。また靴底の雪でアイゼンを装着できないトラブルが発生し、装着に時間がかかった。実際の山の状態を想定した準備の必要性を感じた。

・体力不足で、上りが多かった初日はかなりきつかった。冬山は装備が増えること、雪で歩きにくいことを見越して、走り込みを行う必要性を感じた。

・装備が濡れると一気に保温性が低下した。特に燕山荘前でアイゼンに履き替えた時は、手袋に雪がついて濡れたことで指先がも

のすごく冷えた。

田川 陽斗(食料係)

○感想

八ヶ岳の雪上訓練で行ったラッセルを早速使う機会となった。ラッセルについての理解がより深まってよかった。前回の八ヶ岳では、確認不足でアイゼンが登山靴にハマらなく、OBの方に借りる自体となってしまった。が、今回はきちんと準備し、トラブルがなかったので良かった。朝の準備にも慣れてきて以前よりも準備の時間が短くなっている。八ヶ岳では、計画書の食糧計画の書き方に分かりにくい点があって登山のメンバーに上手く伝わっていなかったが、今回は分かりやすく書き、伝わっていたので良かった。食糧係としては、事前にきちんと準備したことが良かったと思う。

○反省

自分が、ラッセルした場所がしっかり固まっていたと感じなかった。もう少し練習したり、勉強したりしたいと思った。朝の準備には慣れてきて早くなっているが、まだ予定していた時間には

間に合わないことが多いのでもっと早くできるよう工夫したい。

食料係として、八ヶ岳では量が少なかったと感じたので、多くしたが1日目は量が多かった。また、葉物の生野菜は水分が多く持つのが重くて大変だったので、使わないようにするか、軽くなるような工夫をしたいと思った。

藤尾 修一郎(装備係)

○感想

初めての厳冬期の雪山でした。動いている時は思ったより寒くなかったですが1日目にテント場についてひと息つくるととても寒くなって、テントが完成するまで結構きつかったです。テントは迅速に建てるべきだと感じました。燕岳山頂に行けなかったのが心残りです。

○反省

ラッセルで進むのに時間がかかって1日目は第三ベンチまで行けず第二ベンチまでになって2日目は燕岳アタックが時間切れになってしまった。初めてのラッセルだったので仕方ない部分もあると思うが、もっと基礎体力があればゴリ押せたかと思うので体

力不足は反省したい。

松浦 傑音(記録係)

○感想

厳冬期の泊まりでの登山は初めての経験であり、防寒着がどれくらい必要なのや雪が積もっているなかでどのように進んでいくかなどを経験できてよかった。特に、ラッセルのしんどさを身をもって感じた。すでにトレースができていた新歓登山がどれほど楽であったかを知ることができた。また、今回温度計を持参してみたが、いま自分がどれくらいの気温でどれくらいの寒さを感じているかが分かるのは便利だったのでこれからも使っていこうと思う。

○反省

自分の装備や持ち物を気にしすぎて、チーム全体のために準備しておくべきことが疎かになってしまった気がする。地図やルートの確認、朝の準備など、チームの誰かに任せてしまおうという考えを持ってしまっていた。次回以降はチーム全体のために自分は何ができるか、何をすべきなのかを意識して誰かに任せただけ

でなく自分自身で行動できるようにしたい。

写真

